

○演習の想定

- 富士山全域で同時多発的にスラッシュ雪崩が発生した状況を想定
- 特に富士吉田市の宮川と鳴沢村の鳴沢沢の7の上流域で大規模なスラッシュ雪崩が発生し、流路内に大量の土砂が堆積した状況で降雨が予想された場合の対応等を確認

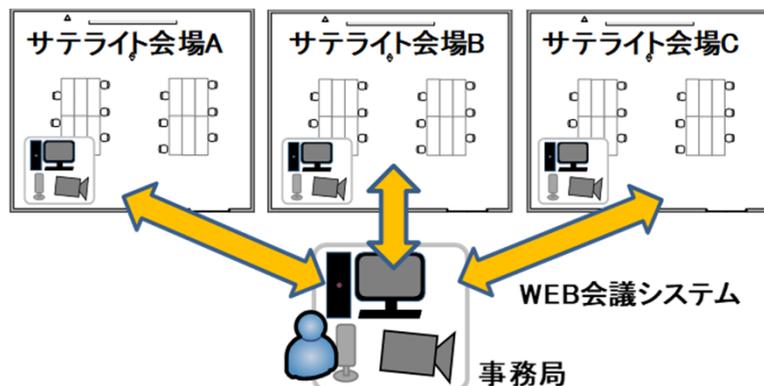
○演習の目的

- 土砂災害の対応力向上を図るため、以下の内容を確認し行政機関の防災担当部署同士の情報伝達や役割分担について習熟する。
 - ・予警報等の発表に対する各機関の体制の確立と避難勧告等の発令のために収集・共有すべき情報を確認する。
 - ・スラッシュ雪崩発生後の迅速な状況の把握と災害の全体像、詳細調査結果に基づく二次災害の危険性を踏まえ、情報共有体制や役割分担を確認する。

○演習の方法(サテライト方式)

- オンライン会議システムを活用し、各機関がそれぞれの会場から参加し演習を行う。

インターネットを通じて、事務局が状況を付与し、各機関は状況に応じた対応や情報収集・共有の方法を発表する。



サテライト方式のイメージ

ステージ2-2 被災状況調査時の対応

<状況付与>
- 被災状況の情報共有 -
3月25日(木) 12時00分

3月25日(木)12時現在の気象予報

- ・気象現況:
 - 天気 くもり
 - 気温 富士山(気) -2.3℃、御中道(国) +4℃
 - 積雪 御中道(国) 30cm
 - 雨量 0mm【河口湖(気)、御中道(国)の1時間、総降水量】
 - 風力【河口湖(気:ウインドプロファイラ)南西の風15m(上空3,000m)】
 - 湿度【富士山(気) 99%】
- ・気象予警報:「なれたれ注意報」継続(富士山南東、富士山南西、富士五湖地域)
「早期注意情報:警戒レベルなし」継続
- ・気象予報 :山梨県東部・富士五湖地域では、本日8時から11日にかけて警報級の「高」中」とともになく、警戒レベルも発表されていない。

ヘリ広域調査による報告:25日(木) 12時



状況付与資料の一例

○事前に講義動画を配布し認識を深めて頂く手法での初めての取り組み

- 今回の演習にあたり、学識者(山梨大学秦先生)の講義動画を見学機関を含めた各機関へ事前配布し、聞き慣れないスラッシュ雪崩という言葉が示す現象や、災害時の情報共有と連携の重要性について、認識を深めて頂く手法を初めて取組んだ。

○演習参加者の主な意見()内は所属等

- 勤務時間外に発生した場合の情報収集・連絡体制のほか、発災後における国交省リエゾンの受入など、他機関との連携について再確認が必要と感じた(山梨県)
- 国や県、市町村と一緒にスラッシュ雪崩という現象について演習できてよかった(富士吉田市)
- スラッシュ雪崩の村外での発生対応であり、国や県との連携の重要性を強く感じた(鳴沢村)
- いつどこでどのような体制になるか、連絡網の仕組み、手順の確認等を日ごろから準備していることが重要である(中部地方整備局)。
- 今回の取り組みは、新型コロナ対応ということで新しい取り組みだったと思う。通常であれば、1か所の大会場に集まって開催するが、今回のオンラインでやったということがチャレンジングだった。稀な事象であるスラッシュ雪崩への対応のイメージが共有され、各機関で課題が抽出された良い演習だった。(山梨大学 秦先生)

